

事務事業評価における総括

部 局 名	教育推進部	記入責任者	白鳥 慶記
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>教育推進部は、教職員の人材育成のための研修事業、公民館等の社会教育施設が主催する各種講座、郷土芸能大会等、対面・集会型の事業など、127 事業の政策的事業に取り組みました。このうち、S 評価が 39 事業、A 評価が 35 事業、C 評価が 21 事業、Z 評価が 22 事業、実績なしが 10 事業という結果となりました。</p> <p>「（仮称）歴史文化交流館整備事業」については、建設工事に着工し、整備を進めたことから、「S 評価」としました。「特別支援学級増設事業（小学校）」については、市内小学校 1 校に開設をしたことから、「S 評価」としました。社会教育施設等のイベント・講座等の事業については、「A」「C」「Z」「実績なし」としました。</p> <p>新たな事業として、「情報機器配備運営事業（G I G A スクール構想の実現）」が追加され、市内小中学校における全児童・生徒にタブレット端末を配備し、情報教育の推進を図りました。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>社会教育施設等のイベント・講座の事業については、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、市主催事業の中止・延期、公共施設の一時閉館、開館時間の短縮等の対策を講じたことにより、指標が未達成となっております。</p> <p>しかしながら、自宅等で気軽に学ぶことができる動画を作成し、ホームページに公表したり、Zoom を活用した双方向性のあるオンライン講座を実施したりするなど、代替手法を用いた取り組みを行い、一定の成果を上げた事業を、「A 評価」、代替手法の環境整備等やノウハウの獲得に留まり、今後、成果が見込める事業を、「C 評価」としています。</p> <p>今後の課題として、社会教育については、オンライン講座開催に伴い、職員の I C T に関するスキルの向上や部内施設等における Wi-Fi 環境の整備が必要であると考えます。</p> <p>学校教育については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年のような地域の人材を活用した教育の推進を図ることができませんでした。今後は、十分な感染対策を講じながら、実施可能な方法による取り組みを進めるとともに、新たな地域との連携の在り方について研究していく必要があると考えます。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>総合計画や教育基本計画に基づき、教育事業については、感染状況を見ながら、引き続き十分な感染予防対策を講じ、児童・生徒、利用者等の安全を確保しながら、進めて行きます。</p> <p>社会教育については、ウィズコロナの対策としてスタートしたオンライン事業について、内容の充実及び環境の整備を図ると共に、市民のデジタルディバイド解消につながるよう、コロナ収束後も継続的に実施していきます。</p> <p>学校教育については、どのような環境であっても、全ての子どもたちに平等な学習機会を保障することが重要であることから、G I G A スクール構想の実現に向けて配備した 1 人 1 台端末等、新たな学習環境の中で効果的に I C T を活用した教育活動のより一層の推進を図ります。</p> <p>部局全体としては、政策・施策目標の達成に向けて、職員の資質（専門性）の向上を図ると共に、事務事業の点検・評価（P D C A サイクル）による検証・改善を行い、コロナ収束後も見据えながら、事務事業の見直しや効率化を図ります。</p>			